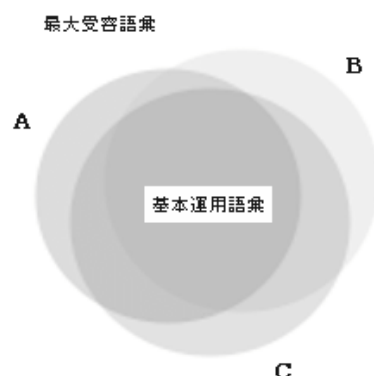


■受容語彙と運用語彙

英語学習者にとって語彙は大問題である。日本語習得の場合には、時間をかけて年齢とともに徐々に語彙をふやしてゆくので、語彙学習はそれほどの負担には感じないが、英語学習の場合には、日本語とは比較にならないほど短期間にかなりの語彙レベルにまで引き上げなければならないので、いきおい語彙学習の負担は大きくなる。英語の語彙数の最終学習目標は、理想的には日本語と同じレベルであろうから、これを達成することは学校英語教育の限られた時間の枠内では不可能である。とはいえ、語彙数が少なくでは思うようなコミュニケーションを行うことができないことも事実なので、いずれにしてもかなりの語彙数を確保しておく必要がある。

普通、語彙は受容語彙(*passive vocabulary*)と運用語彙(*active vocabulary*)の2種類に分けられる。受容語彙とは、聞いたり、読んだり、理解するために必要な語彙であり、運用語彙とは、話したり、書いたり、表現するために必要な語彙のことを指す。

受容語と運用語との関係を簡単に示したのが、右下の図である。三つの円はA、B、C 3人の運用語彙を示す。当然、それぞれの円（運用語彙数）の大きさは異なる。三つの円が重なった部分は3人すべてが使用する語彙、つまり基本運用語彙である。この基本運用語彙は、それだけでは思想・感情を十分表現することはできない。したがって、個人の実際の運用語彙はこれよりも大きくなる。これに対して、三つの円すべてを含んだ外枠部分は相手を理解するための最大受容語彙である。しかし、すべての相手の語彙を理解することは不可能であるので、個人の実際の受容語彙はこれより小さくなる。



■コミュニケーションに必要な語彙数

英米人の語彙数については、いろいろな学者がいろいろな数をあげているが、そのうち控えめな説を紹介すると下の表の通りである。(受容語彙数の調査は *reading* について行ったものであるが、*listening* についてもほぼ同じことが言えると思われるので、便宜的に *reading* と同じ数字を示してある。)

英米人の語彙数

	口頭英語	文字英語
受容語彙数	<i>listening</i> (58,000)	<i>reading</i> (58,000) ¹
運用語彙数	<i>speaking</i> (5,000)	<i>writing</i> (10,000) ²

1. R.H.Seashore 調査

2. Guinness Book 調査

運用語彙数と受容語彙数の比率は、口頭英語で1対10、文字英語で1対5であることが分かる。これは大変な差であり、同時に重要な事実を物語っている。たとえば、「中学英語をマスターしていれば、日常会話は問題ない」という説をよく耳にするが、これは言語理解と言語表現を混同した誤った説である。少なくとも語彙(口頭英語)に関して言えば、「中学英語の語彙を使うためには、中学英語の10倍の語彙数を理解できなければならない」と訂正しなければならない。もし中学英語の語彙数が1000語だとすれば、なんと1万語の語彙を知っていなければならないことになる。

speaking に使う語彙数は **witing** に使う語彙数の1/2と少ないが、これは **speaking** の場合には、即座に考えをことばで表現しなければならないので、本来もっている運用語彙をすべて使うことができないためである。**writing** の場合には、このような時間的制約がないので、本来もっている運用語彙のほとんどすべてを使うことができる。

英語学習者に必要な語彙数はどうかというと、**R. Lado** は、外国人留学生在がアメリカの大学でやってゆくためには、約1万語の語彙が必要であろうと述べている。これはもちろん、受容語彙数を意味する。1万語の語彙がコミュニケーションに必要ということになると、語彙学習はやはり大問題である。

©1993 Yukio Saegusa